

「チャレンジ」のもう一つの意味

千葉大学大学院工学研究科都市環境システムコース准教授
一般社団法人 洗楓座 代表理事
佐藤建吉

「チャレンジ」は、「挑戦」や「挑戦する」という意味であり、何かの目標に向かって行動することにはかならない。この時、目標が大事になるが、目標は、現在の状況を基準とする相対的な位置関係（二者関係）にある。今回はこのような二者関係について述べる。まず取り上げたいのは「工」という漢字の由来である。

「天」を、下の横棒は「地」を意味し、縦棒は天と地をつなぐということを会意している。

天は「理想」、地は「現実」であり、現実にはないが、こういうものがあればいいと考え、それを理想とし、まさに実現することが「ものづくり」の原点である。ものづくりは、地に横たわる材料や技術を用い、天に掲げた理想を実現しようとする行為であり、それを「工」は象徴している（図1）。

とは、現実と理想の「ギャップ」を意味する。現実が理想と一致し、ギャップが解消されたときに「問題解決」となる（図2）。

「夢」は、望みとして理想を思い抱くことであり、現実との相異（ギャップ）として掲げたものである。この場合も理想が現実となり、ギャップがなくなつたときに、「夢の実現」となる。

こうしてみると、ネガティブな問題とポジティブな夢とは同じ意味合いであることがわかる。

これを私たちの人間世界における状況に当てはめると、上下の横棒の隔たりと相対的な位置は千変万化する。問題解決や夢実現にも、いろいろの方法が生じることになり、①掲げた理想（夢）に向かって、現実を高める。最も理想的な方法であるが、困難を伴う。②理想（夢）を少し低めに設定し、現実を高める。現実的な問題解決（夢実現）の方法でもある。③高い理想（夢）を抱かず、現実満足することすらあるだろう。

「チャレンジ」という言葉は、冒頭に述べたように挑戦することであり、問題解決や夢実現に向かう行為である。そのためにも、マネジメント手法を取り入れることが重要となる。実は、マネジメントの分野では、「チャレンジ」という言葉は、「問題」と同義語と意識されているらしい。課題解決や問題解決をすべき対象自体を、「チャレンジ」と呼ぶのである。

筆者の経験では、本コラム5回目でも紹介したエンジニア、ブルネルに関連した行事を2012年に主催したが、通訳を依頼したマネジメント論を専門とする大学講師は、「課題」を「チャレンジ」と明確に訳していた。

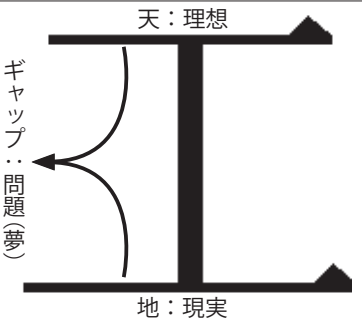


図1 「工」の字形と意味

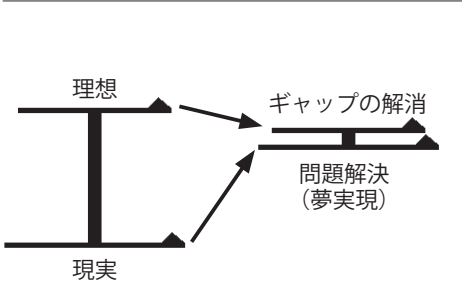


図2 現実と理想のギャップ解消が問題解決、夢実現

ところで上下の横棒の隔たりは、天と地、二元論の表象でもあつた。この「工」という字を典故として、「問題」や「夢」についても解釈することができよう。

我々は、現実やその状況に対し疑義や不満を抱き、あるべき望ましい状況を意識したとき「問題」という言葉を発す。問題解決や夢実現に向かう行為である。この場合も理想が現実となり、ギャップがなくなつたときに、「夢の実現」となる。

これを私たちの人間世界における状況に当てはめると、上下の横棒の隔たりと相対的な位置は千変万化する。問題解決や夢実現にも、いろいろの方法が生じることになり、①掲げた理想（夢）に向かって、現実を高める。最も理想的な方法であるが、困難を伴う。②理想（夢）を少し低めに設定し、現実を高める。現実的な問題解決（夢実現）の方法でもある。③高い理想（夢）を抱かず、現実満足することすらあるだろう。

「チャレンジ」という言葉は、冒頭に述べたように挑戦することであり、問題解決や夢実現に向かう行為である。そのためにも、マネジメント手法を取り入れることが重要となる。実は、マネジメントの分野では、「チャレンジ」という言葉は、「問題」と同義語と意識されているらしい。課題解決や問題解決をすべき対象自体を、「チャレンジ」と呼ぶのである。

筆者の経験では、本コラム5回目でも紹介したエンジニア、ブルネルに関連した行事を2012年に主催したが、通訳を依頼したマネジメント論を専門とする大学講師は、「課題」を「チャレンジ」と明確に訳していた。

私たちは、将来は「再生可能エネルギー社会」を創らなければならぬ。これは、現状とは大きなギャップが存在する理想である。ここで述べたように二者関係から、「再生可能エネルギー社会」は「問題」となるが、これを「チャレンジ」としてとらえれば、前向きな行動をとることが出来る。例えば、再生可能エネルギー利用率を30%にする目標は、ギャップ解消に向けた明確なチャレンジとなるのである。